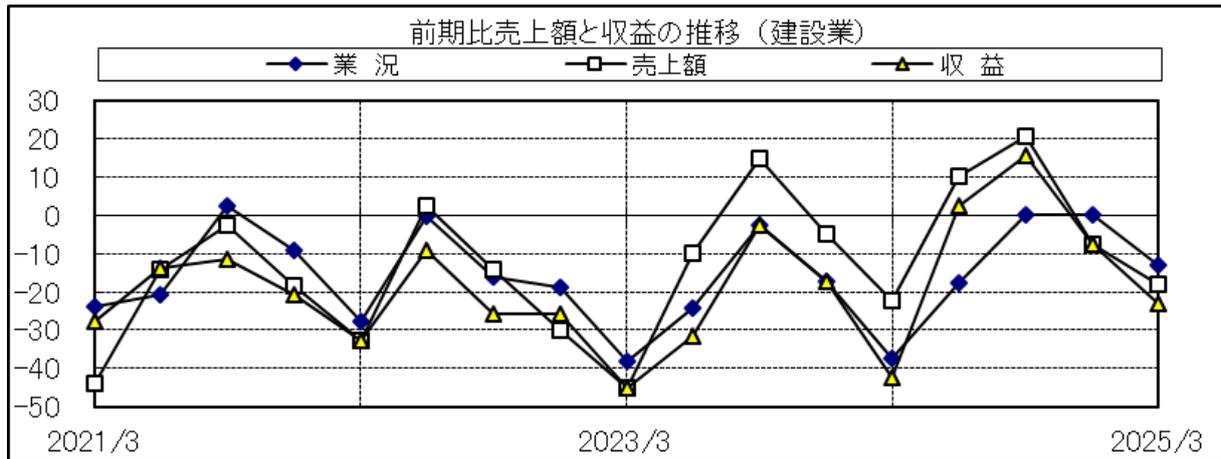


建設業 39企業 (回答率 100.00%) の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
業 況	0.0	0.0	-12.9	10.3
売上額	20.5	-7.7	-17.9	33.4
収 益	15.4	-7.7	-23.1	20.5

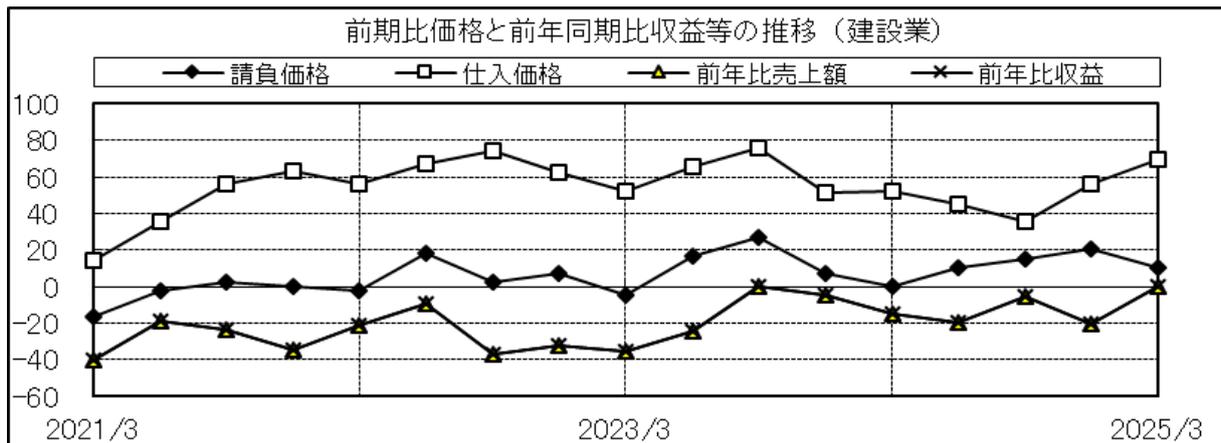
今期の業況判断 D. I. は△12.9 で、前期比 12.9 ポイント下降した。前年(△37.5)比で 24.6 ポイント上昇した。地区別 D. I. の水準は高い順に、静内が最も高く、次に三石、浦河、様似、えりもと続き、広尾が最も低い水準となった。売上額判断 D. I. は、△17.9 で、前期比 10.2 ポイント下降。収益判断 D. I. は△23.1 で、前期比 15.4 ポイント下降した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
請負価格	15.4	20.5	10.2	23.1
仕入価格	35.9	56.5	69.3	43.6

請負価格判断 D. I. は 10.2 で、前期比 10.3 ポイント下降した。前年(0.0)比で 10.2 ポイント上昇した。仕入価格判断 D. I. は 69.3 で、前期比 12.8 ポイント上昇。前年(52.5)比で 16.8 ポイント上昇した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
残業時間	-7.7	2.6	-10.2	-2.6
人手状況	-33.4	-46.2	-46.2	-41.0

残業時間判断 D. I. は△10.2 で、前期比 12.8 ポイント下降し、残業時間が減少したとする企業割合が増えた。人手過不足判断 D. I. は△46.2 で、前期と同水準となり、人手不足感に変動はなかった。

□ 設備投資の動き

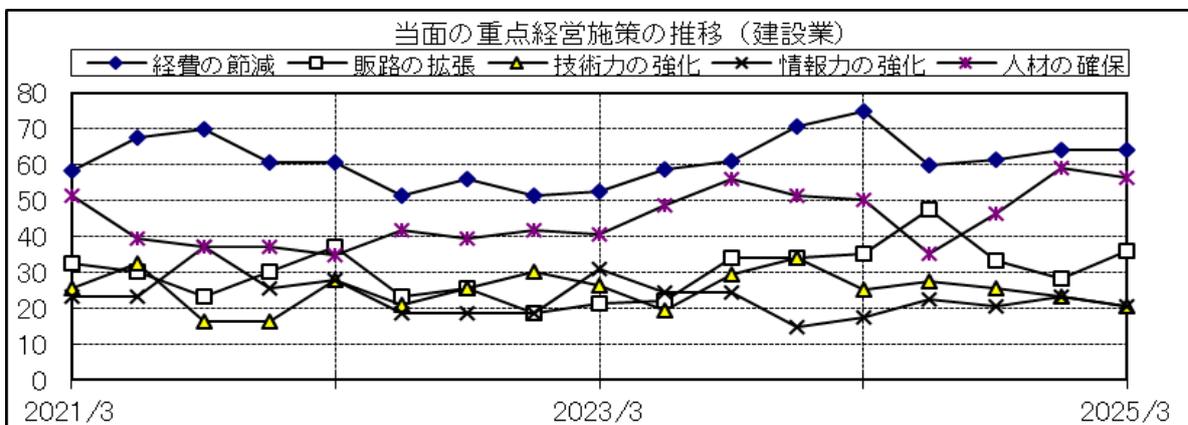
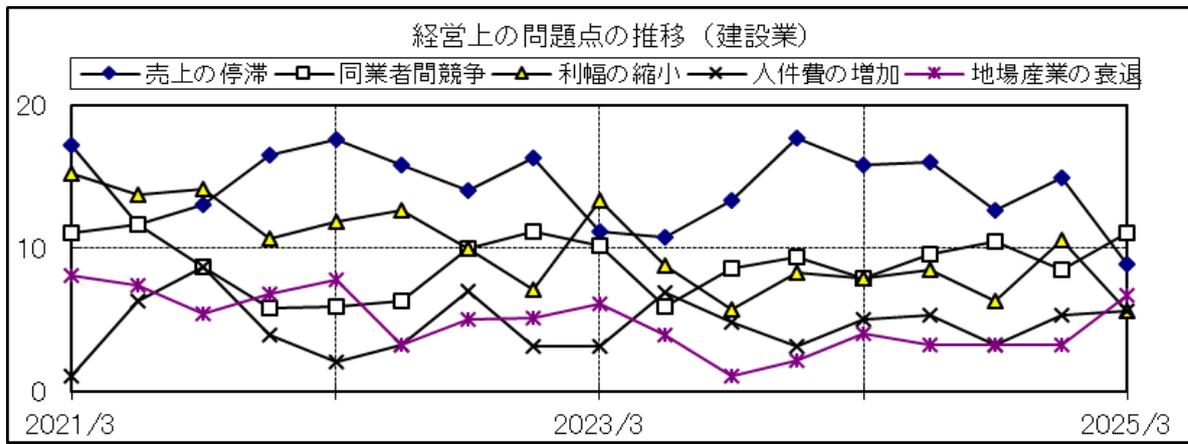
設備投資の充足感を示すD. I. は△7.7で、前期(0.0)比7.7ポイント下降した。

設備投資実施企業割合は12.8で、前期(10.3)比2.5ポイント上昇した。設備投資は、前期4社に対し、5社の実施となった。来期の設備投資は、2社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「人手不足」・「材料価格上昇」が22.2%と最も多く、次に「同業者競争」11.1%、「売上停滞減少」8.9%、「地場産業衰退」6.7%、「利幅縮小」・「人件費増加」が5.6%、「技術力不足」4.4%、「大手企業競争」・「諸経費増加」が3.3%、「下請確保難」2.2%、「合理化不足」・「資材置場確保難」・「代金回収悪化」・「天候不順」が1.1%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が64.1%と最も多く、次に「人材確保」56.4%、「販路拡大」・「技術力強化」が35.9%、「情報力強化」20.5%、「教育訓練強化」・「労働条件改善」が2.6%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は10.3と、今期比23.2ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断D. I. は33.4と、今期比51.3ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断D. I. は20.5と、今期比43.6ポイントの上昇を見通している。

予想請負価格判断D. I. は23.1と、今期比12.9ポイントの上昇を見通している。

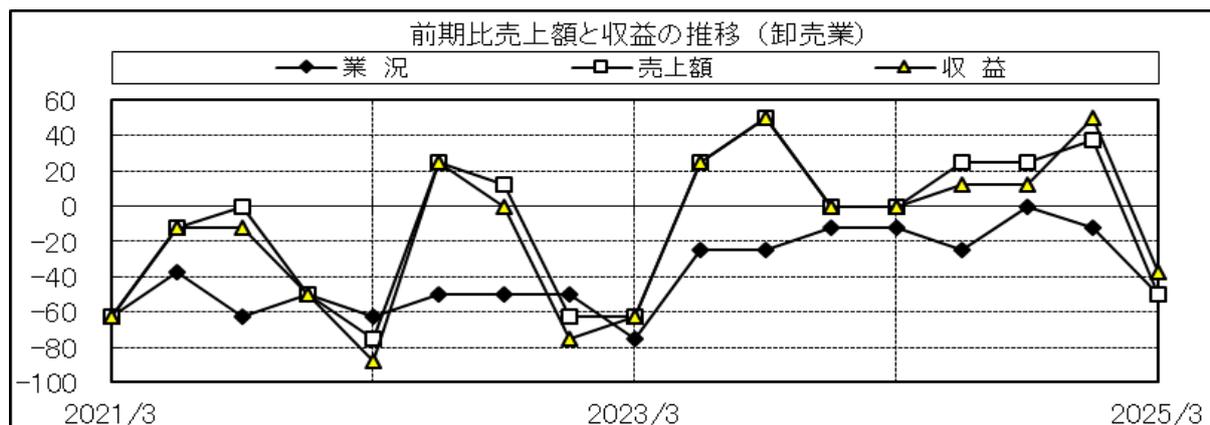
予想仕入価格判断D. I. は43.6と、今期比25.7ポイントの下降を見通している。

卸売業 8企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 景況

DI 値の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
業況	0.0	-12.5	-50.0	-25.0
売上額	25.0	37.5	-50.0	0.0
収益	12.5	50.0	-37.5	-12.5

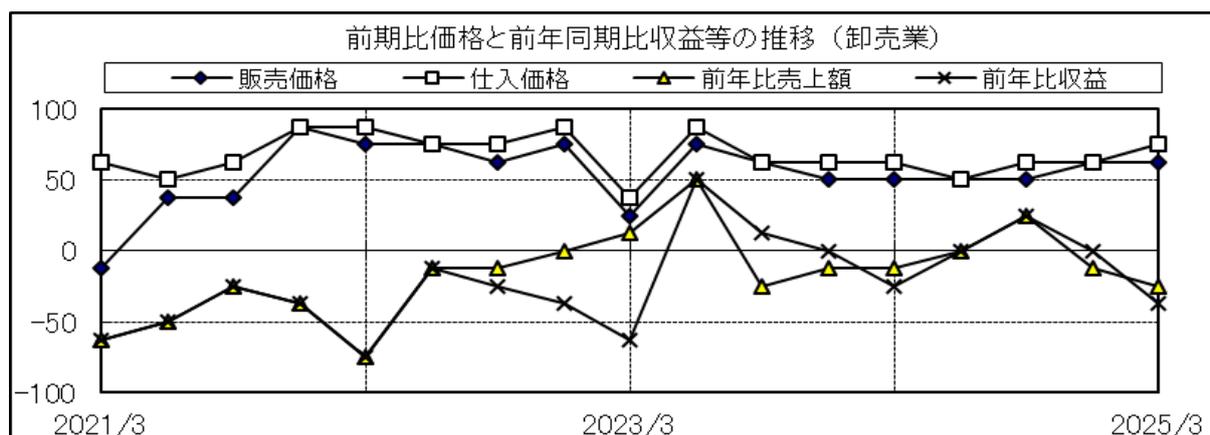
今期の業況判断 D. I. は $\Delta 50.0$ で、前期比 37.5 ポイント下降。前年($\Delta 50.0$)と同水準となった。地区別 D. I. の水準は、浦河・静内地区は下降、類似地区は横這いとなった。売上額判断 D. I. は $\Delta 50.0$ で、前期比 87.5 ポイント下降した。収益判断 D. I. は $\Delta 37.5$ で、前期比 87.5 ポイント下降した。



□ 価格面の動き・前年同期に比べた動き

DI 値の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
販売価格	50.0	62.5	62.5	25.0
仕入価格	62.5	62.5	75.0	62.5

販売価格判断 D. I. は 62.5 で、前期と同水準となった。前年(37.5)比 25.0 ポイント上昇した。仕入価格判断 D. I. は 75.0 で、前期比 12.5 ポイント上昇した。前年(50.0)比 25.0 ポイント上昇した。業種別では、水産業は、販売価格は下降、仕入価格は上昇した。食品業は販売、仕入価格ともに下降した。



□ 雇用面の動き

DI 値の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
残業時間	-12.5	0.0	0.0	12.5
人手状況	0.0	0.0	-12.5	0.0

残業時間判断 D. I. は 0.0 で、前期と同水準となり、残業時間に変動はなかった。

人手過不足判断 D. I. は $\Delta 12.5$ で、前期比 12.5 ポイント下降し、人手不足感は強まった。

□ 設備投資の動き

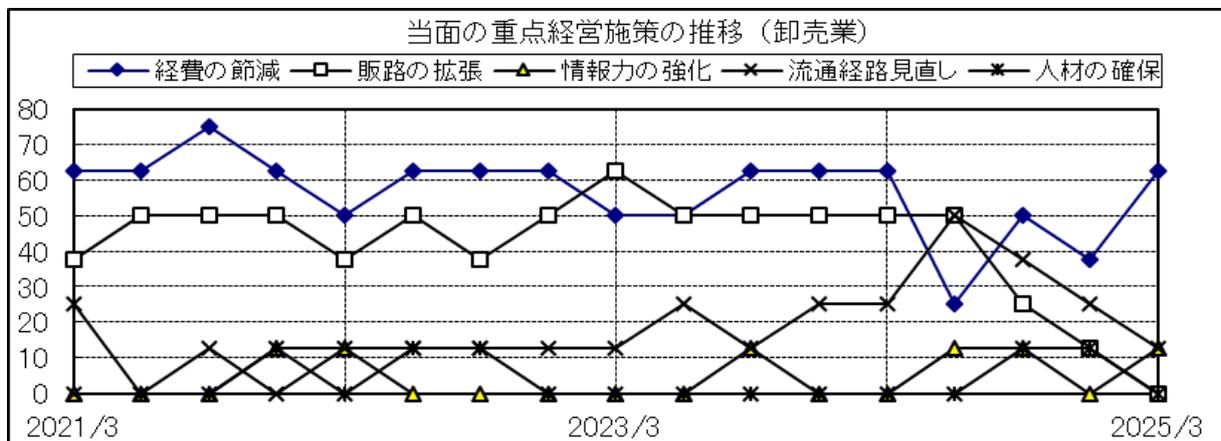
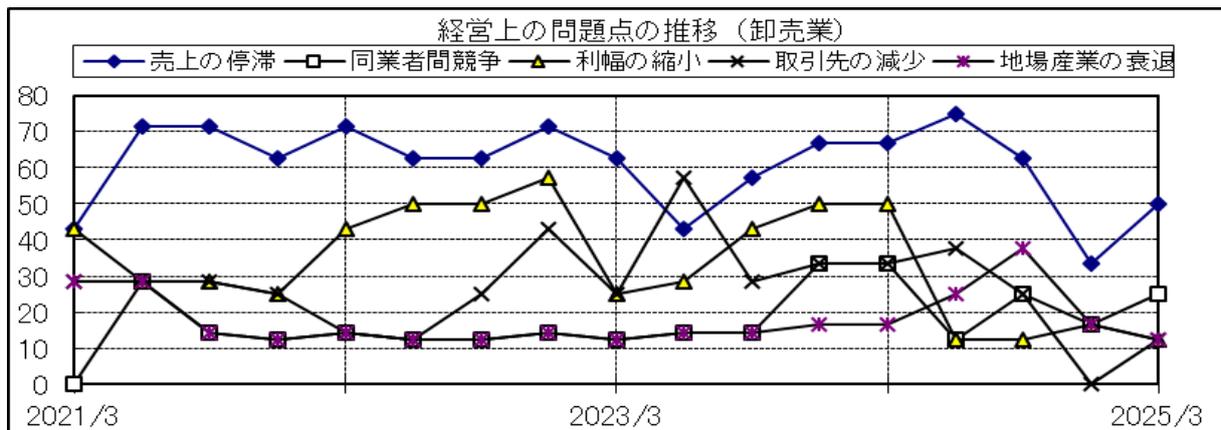
設備投資の充足感を示すD. I. は0.0で、前期(0.0)と同水準となった。

設備実施企業割合は0.0で、前期(0.0)と同水準となった。設備投資は、前期0社に対し、実施した企業はなかった。来期の設備投資を予定する企業は2社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が50.0%と最も多く、次に「同業者競合」・「値上要請」が25.0%、「人手不足」・「輸入製品競合」・「利幅縮小」・「人件費増加」・「取引先減少」・「店舗老朽化」・「地価高騰」・「地場産業衰退」が12.5%となっている。

重点経営施策では、「経費削減」が62.5%と最も多く、次に「品揃えの充実」・「情報力強化」・「新事業開始」・「流通経路見直し」・「労働条件改善」・「不動産有効活用」が12.5%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は△25.0と、今期比25.0ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断D. I. は0.0と、今期比50.0ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断D. I. は△12.5と、今期比25.0ポイントの上昇を見通している。

予想販売価格判断D. I. は25.0と、今期比37.5ポイントの下降を見通している。

予想仕入価格判断D. I. は62.5と、今期比12.5ポイントの下降を見通している。